『Xactiクラウドサービス』及び当社『遠隔支援ソリューション』が掲載されました

▼2021/08/21 警備保障タイムズ 1面

▼2021/08/21 警備保障タイムズ 3面

「ザクティ」のウェアラブルカメラ

ザクティ／ザクティエンジニアリングサービス（大阪市、喜久川政樹社長）は、警備業に活用できる業務用ウェアラブルカメラを使った遠隔支援サービスを開発、提供している。

同社ウェアラブルカメラの最大の特長は、強力な〝揺れ補正機能〟により、カメラ映像が驚くほどブレないこと。航空機の機体制御技術を応用した独自開発の「エクスタビライザー」で映像揺れを電子的に補正する。補正範囲は上下90度・左右30度で、大きく複雑な揺れでも補正可能だ。

カメラを取り付けた頭や体を傾けても映像を水平に保つことができ、遠隔から映像を確認する際も〝映像酔い〟を起こすことなく快適に遠隔支援ができる。露出や歪みも適正に補正する。明るい部分が白くなる「白飛び」がないきれいな映像を映し出し、直線部など実物の形状をそのまま再現できる。

カメラ本体を頭部に付ける「ヘッドタイプ」と、胸部に付ける「チェスト（胸）タイプ」の2種類があり、サイズはヘッドタイプが幅69㍉×高さ92㍉×奥行37㍉、重量は95㌘（ケーブルを除く）。チェストタイプ幅56㍉×高さ105㍉×奥行53㍉、重量125㌘（同）と、いずれも小型軽量だ。映像スペックとしては、最大フルHD／30Pの動画撮影が可能。イメージセンサーには監視カメラでも使われるSONY製「STARVIS」を採用しており、暗い場所でも鮮明な映像を映し出すことができる。防水・防塵性能（IP65）で耐久性があり、マイナス5～50度の環境下でも使用が可能だ（風速1㍍以上の環境下）。

頭部に付ける「ヘッドタイプ」（ザクティエンジニアリングサービス提供）

胸部に付ける「チェストタイプ」

同社の遠隔支援サービスは、このウェアラブルカメラをスマートフォンやPCに接続し、Teamsやzoomなど既存のウェブ会議アプリを活用してコミュニケーションを行う。新たな通信システムを必要とせず、すでに利用している環境を使って簡単に遠隔支援システムを導入できるところが特長だ。

接続するスマートフォンやPCなどの端末は、Android（Windows）、iOS（iPhoneやiPadのいずれにも対応する。iOSと接続できる業務用ウェアラブルカメラは現在、同社の製品のみだ。

クラウドサービス登場

ザクティは、7月から新サービス「Xacti クラウドサービス」を提供開始した。同社の業務用ウェアラブルカメラを使い、フルHDの高画質映像をクラウドサーバーに保存可能だ。

スマートフォンにバックアップ保存することにより、通信状態がよくない警備現場でも通信環境を気にせずに現場の映像を記録できる。クラウドにアップロードされた画像は、遠隔地から簡単に視聴・共有することができ、高画質な警備記録の保存や警備対応の支援・指示など多目的な活用が可能となる。映像の保存期間を気にしないで過去の記録映像をいつでも確認できる。

料金は「スタンダード」と「ヘビーユース」の2プランがある。スタンダードは月額使用料（税別）3000円で上限使用容量は100㌐まで（動画記録時間の目安は約40時間）。ヘビーユースは5000円、3500㌐まで（同約160時間）となっている。

「新規導入キャンペーン」として、9月末までのクラウドサービス申し込みで、どちらのプランも月額使用料が12月末まで無料になる。サービスは現在、iPhone、iPad向けのみとなっており、Android向けは順次対応予定だ。

▽問い合わせ先　ザクティエンジニアリングサービス☎06-7166-3942

Japan Asia Group
Xacti